

山びこ

YAMABIKO

2023
(令和5年)

2月号



東葛山の会

No. 543

2月・3月 予定表	1
1月例会（出席者）・12月山行実績&コメント	2～5
山行案内（2月・3月・4月）	6～10
山行報告	
・ 顔振峠(かあぶりとうげ)(石塚)	11
・ 沼津奥アルプス(桐生)	12
・ 衣張山(井上勝)	13
16歳の日記【自転車で福島県1周7日間と会津磐梯山登山】(猪狩)	14～19
短歌 鎌倉の衣張山を振り返り(羽鳥)	20
思い出の山「黒斑山」(安彦)	21
「創立時の思い出」1月号の修正(手塚)	22
ちょっと一言(金子)	23

表紙写真紹介

撮影日時 2018年8月17日(金) am11:27
涸沢ヒュッテから涸沢小屋～北穂高岳を撮影
16日夜「さわやか信州号」で上高地へ、小梨平キャンプ場にテント設営。
奥穂高岳(小屋泊)～前穂高岳～小梨平(テン泊)
西穂独標～ピラミットピーク(2750m)で足の踏ん張りがきかず西穂高岳断念。
～畠山 良智～

会報部からのお願い <表紙写真>

3月号は竜口まゆみさん、4月号は和田弥生さんです。
その際、100字程度の紹介文を添えて、前月20日までに、会報部(桐生)へ提出して下さるようお願いいたします。

予定表 2023年2月・3月

日	曜日	2月	日	曜日	3月
1	水	山行部会 (18:00~20:00)	1	水	山行部会 (18:00~20:00)
2	木		2	木	
3	金		3	金	
4	土	高麗山・八俣山・浅間山(雨天中止)	4	土	
5	日		5	日	
6	月		6	月	玉原高原スノーシュー (一泊二日)
7	火		7	火	
8	水		8	水	
9	木		9	木	
10	金		10	金	
11	土	建国記念の日	11	土	
12	日	例会 (14:00~16:00)	12	日	例会 (14:00~16:00)
13	月		13	月	
14	火		14	火	
15	水	運営委員会	15	水	運営委員会
16	木		16	木	
17	金	沼津アルプス (一泊二日)	17	金	
18	土	(雨天中止)	18	土	南高尾山稜(雨天中止・予備日3/19)
19	日	ワンコイン講習会(13:00~)	19	日	
20	月	編集会議 (10:00~12:00)	20	月	
21	火		21	火	春分の日
22	水		22	水	
23	木	天皇誕生日	23	木	
24	金		24	金	
25	土	小倉山 (雨天中止)	25	土	
26	日		26	日	
27	月		27	月	
28	火		28	火	編集会議予定
			29	水	
			30	木	
			31	金	六万騎山 (雨天中止)

※2023年4月山行予定
 ★4/1 (土) ~4/2 (日) 国上山・弥彦山
 ★4/8(土) さきたま古墳公園・忍城跡(雨天中止) ★4/22(土) 坂戸山

1月例会出席者 2023/1/8

37名

手塚、安彦、安田、松本、加藤、岡部、桐生、村上、八巻、伏見、前田延、山岡、村田、入江、間瀬、五十嵐朝、四元、江崎、三橋、嶋本、菊池、猪狩、羽鳥、井上勝、山脇、赤塚、菅谷、山口洋、蓮見、菅原、清水、金子、柳、岡登、伊藤、竜口、野澤

2022年12月 山行実績 & コメント

No	山名	ジャンル	月日	山行区分	人数	参加者
1	衣張山(きぬばりやま) 下見	ハ	12/1	個	3	山口洋、井上勝、菅原
寺、史跡、遺跡、山を古道でつないで歩きました。寄りたい所が沢山ある中で、会山行のコースにする所を決めました。(やまびこ1月号に掲載) (山口洋)						
2	高尾山(たかおさん)	ハ	12/3	個	6	桐生、小林、五十嵐朝、伏見、菊池、伊藤
本誌 1月号「コメント欄」に掲載 (伏見)						
3	首都圏自然歩道(千葉県No8) JR東金駅～JR土気駅 (県連ハイキング委員会下見)	ウ	12/4	県	1	羽鳥 他1名
下見コースは少し長かったので、ゴールを土気駅から大網駅に変更します。詳しくは「ちばニュース」1月号をご覧ください。(羽鳥)						
4	倉岳山(くらたけやま) ・高畑山(たかはたやま)	ハ	12/4	個	4	蓮見、赤塚、山口洋、金子
本誌 1月号 コメント欄に掲載 (蓮見)						
5	宝篋山(ほうきょうさん)	ハ	12/4	個	2	安田、江崎 他1名
雲一つない12月の日曜日、小田休憩所の駐車場の空きがあるか心配でしたが、どうか1台止める場所がありました。準備をして8:00出発。常願寺コースを登り始める。尖浅間山を下りA4を右に入り滝コースを目指して歩く。三段の滝(名前はわからない)を眺め、天狗の庭までひたすら登り、一息入れ更に頑張って登り林道に出る。左にルートを取り宝篋山山頂までもうひと頑張り10:50山頂に着く。青空のもと山頂には大勢の人。座る場所を探し、香り高いコーヒーと軽食をとる。下山は極楽寺コース。小田休憩所の駐車場に12:40着。帰られた方が多いのか、車はずいぶん少なくなっていました。早朝に来て登る人が多いのでしょうか。気持ちの良い山歩きが出来ました。(江崎)						
6	宝篋山(ほうきょうさん)	ハ	12/9	個	3	山口洋、菅原、竜口
上り;極楽寺コース、下り;常願寺コース 快晴の登山だったので、筑波山はもとより、雪の富士山、日光連山、八ヶ岳、スカイツリー、雲に浮かぶ東京のビル、霞ヶ浦の全景を見ることができました。冬の宝篋山の良さを味わいました。(山口洋)						

No	山名	ジャンル	月日	山行区分	人数	参加者
7	山梨・小倉山(おぐらやま) 下見	ハ	12/10	個	3	猪狩、柳、清水 他1名
<p>2月会山行の下見 ざぜん草の名所と富士山の眺望が目的であり、ざぜん草は積雪期が見頃ではあり、当地は冬季でも積雪はめったに見ないと話であったが、念のため下見に行くことに成った。普通のハイキングコースではあったが、案内標識が解りづらく、尾根の登山道が1部崖地があり積雪期は危険コースと思えた。程度によるが、その時の積雪状況により、ざぜん公園から小倉山山頂へのピストンコースも考えるべきと思えた。頂上からは富士山も良く見えた。下山してから今が最盛期吊るし柿を見学した。(猪狩)</p>						
8	太平山(おおひらさん)	ハ	12/10	個	4	桐生、伏見、五十嵐朝、菊池
<p>新大平下駅～大中寺までタクシーで。登山道は薄暗く落ち葉がかなり積もり、滑りやすく石も隠れているので要注意です。大平山山頂で一休み。地元も野球少年が元気に下って行く。ぐみの木峠では、今飛び出そうとパラグライダーが準備中。しばらく待って二基が飛ぶのを見送ってチョット興奮気味！ 晃石山からは雪を被った日光連山の展望を満喫。桜峠、清水寺、駅まで歩いて6時間の山歩きでした。(五十嵐朝)</p>						
9	忘年山行：伊豆大島 『三原山(みはらやま)』 & 島内バス観光	ハ	12/16 ～18	会	29	安彦、鈴木か、岡田、加藤、桐生、八巻、小林、伏見、前田延、村田、間瀬、五十嵐朝、五十嵐幸、四元、江崎、石塚、嶋本、菊池、羽鳥、井上勝、山脇、山口洋、蓮見、菅原、山口幸、清水、畑中、笹、柳
<p>コロナ禍で中止していた忘年山行(宿泊)を3年ぶりに復活。しかも、雪上ハイクではなく、船で行く砂礫上ハイク(ミニ海外登山?)として実施。 当初の費用試算では、『35,000円』程度であったものを、会からの補助30,000円と大島温泉ホテル宿泊が『全国旅行支援』の適用(40%割引)を受けることができ、結果として、5食付きで島内一周バス観光(4時間)付きで、一人当たり『19,800円』で実施できました。更に、使用できるまでに苦労した電子クーポン券1,000円も付く…というものでした。 天気予報では、午後に☔という中のハイキングでしたが、何とか本降りになる前にホテルに着くことができホッとしました。曇り空とは言え、伊豆半島、富士山、伊豆七島に加え、房総半島なども望め、更に、爆裂火口を目の当たりにすることもできました。日本地図の中で、唯一『砂漠』と付く『裏砂漠』も歩くことができました。 翌日は、朝から快晴で、島内の名所旧跡などを堪能することができました。その中でも特に印象に残ったのは、『地層大切断面』ですね。写真などで見ていましたが、そのスケールの大きさやハッキリとしたカラフルな『バームクーヘン』には驚きました。時間に余裕があれば、もっと眺めていたかったですね。 快晴とは言え、風が強く、当初予定の『ジェット船』は欠航になり、往路と同じ『大型客船さるびあ丸』に変更になりました。しかし、思っていたほど船の揺れを感じることもなく、船旅を味わうことができました。 時には、船旅も面白いのでは…と思われた参加者から、『伊豆七島シリーズを考えてみてもよいのでは…』という声も聞こえ、更に、『次は八丈島に行きたいね!』と、早くも次の忘年山行の要望も出るほどでした。(安彦)</p>						

No	山名	ジャンル	月日	山行区分	人数	参加者
10	茨城・御前山(ごぜんやま)	ハ	12/21	個	4	安田、江崎、嶋本、菅谷
<p>参考タイム 新鎌ヶ谷(6:00)―道の駅かつら(8:30-8:45)―東登山口(8:50)―御前山(9:30)…西登山口への分岐(9:40-10:10)…光戸(10:50)…西登山口(11:20)―道の駅かつら(11:25-11:35)―新鎌ヶ谷(17:10)</p> <p>御前山は東の嵐山というのがキャッチフレーズらしいが、紅葉が落ちつくした後は、そこらの冬木山であった。お蕎麦を食べ温泉に入ることを中心に考えたお気楽コースである。東登山口が分かりにくかったが、急なところのない、春なら桜の咲いたウォーキングコースであった。取柄は登山者がおらず、誰にも会わなかったことだろう。(菅谷)</p>						
11	顔振峠(かあぶりとうげ)	ハ	12/24	個	7	鈴木か、前田延、石塚、猪狩、山口洋、清水、柳 他1名
<p>本誌 P 11 「山行報告」 参照 (石塚)</p>						
12	片品(かたしな)村スキー	雪・スキー	12/24 ~27	個	1	羽鳥 他2名
<p>今シーズンの初滑りは片品村の「かたしな高原スキー場」でした。雪質も良く天気もまあまあでした。OB先輩にアドバイスを受けながら安全第一で滑りました。初めてのスキー場でしたが、スキーのみでボーダー禁止でしたので滑りやすかったです。終わってからは「みやま旅館」の甘酒で温まりました。(羽鳥)</p>						
13	高尾山(たかおさん)	ハ	12/28	個	4	桐生、伏見、五十嵐朝、菊池
<p>年末の忙しい時に高尾山を歩いたのには目的がありました。氷の花(華)を見たかったからです。しかし、28日はおだやかな気候で、残念『ちょぼい氷の花』を何とか二つ見つけましたが、過去に見た美しい氷花は見つけることができませんでした。でも、2022年の歩き納めハイキングとして満足しました。(桐生)</p>						
14	高尾山(たかおさん)	ハ	12/28	個	4	石塚、畑中、前田延、加藤
<p>久しぶりにシモバシラの氷の花を見に高尾山へ。小仏城山の北東尾根から登り、城山の頂上直下に10時半頃到着。もうこの辺は霜解けでぬかるんでいた。シモバシラの氷花も根本に小さく残っているだけ。紅葉台のまき道の方へ行ってみたけれど同じ状態。休んでいた女性に写真を見せてもらったかなりきれいに撮れていた。どうやら遅くなったので気温が上がり氷は小さくなったみたい。またの機会に期待しましょう。(前田延)</p>						

No	山名	ジャンル	月日	山行区分	人数	参加者
15	筑波山(つくばさん) 薬王院コース	ハ	12/29	個	1	菅谷

参考タイム 馬込沢(6:30)—つくば(7:43-7:50)—バス—筑波山口(8:50-9:00)—タクシー—薬王院(9:10-9:20)…P709(10:00)…御幸ヶ原(10:25)…男体山…女体山(11:10)…白雲橋コース…昼食(12:00-12:20)…筑波山神社(12:45-14:10)—つくば(15:00)—馬込沢

行きの経路を変更して、早めに家を出たところ、筑波山口についた時には予定より1時間弱早く着いてしまった。冷たい風に吹かれ、目の前にタクシー会社があるので、思わず薬王院まで乗る。2500円ほど。おかげで、参詣をしても出発が2時間早くなる。ゆるく淡々と登っていく。若い人に抜かれ、年寄りを抜かす。御幸ヶ原まで行くと、かなりの人がうろうろしている。風は強いが、周囲の山も新宿もスカイツリーも富士山も見える。男体山、女体山に今年のお礼と来年のお願いをして白雲橋コースを降りる。蛇紋岩が多いらしく、滑りやすい岩が多い。また、たくさんの子連れとすれ違うので、注意してゆっくりと下る。神社まで下って、屋上にある温泉に入る。青木屋。1100円。展望がよろしい。家に帰ると、予定より2時間早かった。今年の山歩き納めになった。(菅谷)

2023年1月 山行実績 & コメント ; 受領分

No	山名	ジャンル	月日	山行区分	人数	参加者
1	三浦富士(みうらふじ) ・武山(たけやま)	ハ	1/3	個	6	山口洋、江崎、嶋本、加藤、滝口、金子

津久井浜駅9:00→高田橋→三浦富士。その後、見晴らしの良いベンチにて美しい海岸線と大島を眺めながら昼食、暑い位の温かさ。そして、砲台山を経由して武山。今シーズン初めての蠟梅を愛でる。良い香り。筑波山、スカイツリー、房総方面は富山らしき姿も見渡せる。残念ながら富士山は道中見えたり隠れたりだった。帰路は津久井浜観光農園→高田橋→下田橋→津久井浜駅へ戻る。駅に隣接した浅間神社をお参りして甘酒を頂き14:01の電車に乗り込む。のんびりゆ〜っくり冬の陽だまり初ハイクでした。(金子)

古…古道 ハ…ハイキング ウ…ウオーキング 沢…沢登り 縦…縦走 岩…岩登り
雪…雪山・スキー

山行案内

2月の山行予定

* (大磯) ^{こまやま}高麗山167m~^{はっぴょうやま}八俵山151m~^{せんげんやま}浅間山181m ウォーキング

日時：2月4日 (土) 雨天中止

☆ 集合を船橋駅ではなく大磯駅に9時半、解散を大磯駅に変更しました。
少し早めに行って、休日切符をお求めください。

担当：(CL) 山岡、(SL) 加藤・八巻

*沼津アルプス縦走 標高300m前後の山々 (☆☆・★)

標高は低いが起伏のある山稜を2日かけて歩きます。急坂、急登、急降下が連続します。
やせ尾根もあり、ロープ・鎖などがあります。慎重に行動しましょう。

日程： 2月17日 (金) ~18日 (土) 雨天中止

集合：沼津駅前 8時45分

交通： ○船橋6:46→品川7:20_7:34新幹線 (こだま70号)

三島8:17_8:23沼津8:34着 バス9:00

○船橋5:50→戸塚6:58_7:10→熱海8:19_8:23→沼津8:41

1日目：多比バス停…大平山…鷲津山…志下峠…公会堂前バス停<ホテル迎車>

歩行距離 4km 歩行時間 3時間 (休憩含まず)

2日目：<ホテル送迎車>公会堂前バス停…志下峠…徳倉山…横山…香貫山…黒瀬…沼津駅

歩行距離 7km 歩行時間 4時間30分 (休憩含まず) 沼津駅にて解散

宿泊の宿 翠泉閣 宿泊費 11,000円位

旅行支援対象20%引き クーポン2000円 (電子クーポン)

コロナ3回済証明と身分証明書持参 忘れたら割引なし料金

キャンセル料金 7日~4日前20% 3日~2日前30% 前日~100%

交通費 約7,000円 (ジパング利用 5,300円位) バス代含む

担当者 (CL) 江崎、(SL) 梅田・桐生

*小倉山 標高954.8m ゆるい山 (☆☆)

日時：2月25日 (土) 雨天中止

担当：(CL) 柳、(SL) 猪狩・間瀬

3月の山行予定

*玉原高原 雪 スノーシュー (体☆ 危★)

玉原高原のペンションに一泊し、ブナ林や湿原を宿の主人のガイドで二日間スノーシューを履いて雪の湿原を歩きます。

日時： 3月6日(月)～7日(火)一泊二日 (鎌ヶ谷観光バス利用)

日程

(1日目) 歩行時間:約2時間30分

6:00 鎌ヶ谷市役所(福祉健康センター)出発—三郷南 IC—7:40～7:55 三芳 PA(トイレ休憩)—
9:25～9:40 赤城高原 SA(休憩)—沼田 IC—10:40 玉原スキーパーク—10:50 「つつみ・すくえ
あ」チェックイン 昼食、準備

13:00～15:30 ペンションの周辺の林の中を足慣らしで歩く。 18:00 夕食

(2日目) 歩行時間:約3時間30分(昼食含む)

(朝食後) 9:00 出発—玉原湿原を周遊する(昼食)—13:30 ペンション—帰り仕度
—14:00 バス出発—14:30～15:30 望郷の湯—沼田 IC—16:00～16:15 上里 SA
—17:15～17:30 新倉 PA—三郷南 IC—18:45 鎌ヶ谷市役所

宿泊先 ペンション「つつみ・すくえあ」群馬県玉原高原

概算費用 ・約23,000円(宿代、スノーシューレンタル代、バス代等)

- ・募集人数は宿のコロナ対応のため最大17人とします。
- ・全国旅行割が3月末まで延長の場合はバス代と宿は対象となります。

担当：(CL)・安田甚二、(SL)羽鳥健一郎・江崎昌子

*南高尾山稜 (☆☆ ★)

ほぼ樹林帯。アップダウンを繰り返し、約30分おきに登頂できる山が続くため、飽きる事無く歩けるが、天候の状態によっては凍っている可能性があるため軽アイゼンとスパッツが必要。

日程： 3月18日(土) 予備日19日(日) 雨天中止

集合： 相模湖駅改札外8:20(改札は一か所です)

トイレ(女性用：改札内・改札外に各3ヶ所ずつあり)

解散： 高尾山口駅

(往路) ①新鎌ヶ谷 5:41—船橋 5:53_6:05 (JR 船橋・三鷹行)—お茶の水 6:38_6:43(高尾行)—高尾 7:56_8:02 (甲府行)—相模湖 8:11 (片道 IC 1,717円)

②新鎌ヶ谷 5:53 (北総線)—東松戸 5:59_6:12(武蔵野線・府中本町行)—西国分寺 7:16_7:27 (高尾行)—高尾 7:56_8:02 (甲府行)—相模湖 8:11 (片道 IC 1,848円)

③新鎌ヶ谷 5:29—船橋 5:41_5:56(JR 船橋)—本八幡 6:04_6:13 (都営新宿線・橋本行)—調布 7:16_7:18 (京王線特急・八王子行)—北野 7:38_7:39 (京王高尾線・高尾山口行)—高尾 7:49_8:02 (甲府行)—相模湖 8:11(片道 IC 1,299円)

相模湖駅 神奈川中央交通バス 八王子駅北口行 8:39 発—大垂水 8:55

(復路) 高尾山口 — 高尾 — 往路を戻る

高尾山口駅発 新宿行 15:08(特急) 15:15(ライナーMt. TAKA02号) 15:17 15:28(特急)

コース：大垂水バス停…大洞山…コンピラ山…中沢峠…中沢山…見晴台…西山広場…西山峠…
三沢峠…草戸山…四辻…高尾山口駅

歩行距離：約9.1km 登り(541m)、下り(744m) 歩行時間：約6時間(休憩含む)

交通費概算：上記参照+バス280円

その他：昼食：1 天候により軽アイゼンとスパッツ

担当：(CL)金子、(SL)松本・前田節子

*六万騎山(ろくまんきやま)321m ウォーキング(☆)(危険・なし)

山頂からは上越国境の雪山が一望でき、カタクリ・イワウチワの花の群生があります。

日時：3月31日(金)雨天中止

集合・解散：越後湯沢駅新幹線改札口

往路：新鎌ヶ谷6:01—松戸6:19_6:25(快・上野行)—上野6:45_7:10(とき303号)—
越後湯沢8:13_9:02五日町着9:28

復路：五日町14:40—湯沢15:07_16:01(谷川412号)—東京17:28

13:23—湯沢13:51_14:09(とき322号)—東京15:28

コース：JR五日町駅…30…麓登山口…1:30…下山…魚沼の里(往復)2:00

<魚沼の里> 公園のような広い空間におしゃれなお菓子、ワイン、日本酒、そば屋等がある
スポット

歩程：標高差300m コースタイム 約4時間

交通費概算：10,000円(ジパング利用)

昼食：1食 登山口にコンビニあります

担当：(CL)桐生、(SL)八巻

4月の山行予定

*国上山(くがみやま)313m・弥彦山(やひこやま)634m (体☆☆+危技★)

素晴らしい春の花に会いたい (前に会山行で歩いたコースと違います。)

日時：4月1日(土)~4月2日 集合：弥彦駅10:40

日程：4月1日(土)

(往路)：上野駅(とき305号)7:54—燕三条9:42_10:05—弥彦10:32

コース：送迎バス11:00 燕市分水ビジターセンター

登山口…国上山…剣ヶ峰…猿ヶ馬場峠 送迎バスに 歩行時間 約4時間

4月2日(日)8:00 弥彦山八枚沢登山口へ送迎バスで

コース：八枚沢登山口…雨乞山分岐…能登見平…妻戸山分岐…妻戸山…

弥彦山八枚沢登山口 送迎バスに ゆっくりお花見で4時間位

復路)：弥彦15:11—吉田15:20_15:29—燕三条15:40_6:37(とき334号)—上野18:34山の

特徴(危険)：弥彦山八枚沢登山口から雨乞山分岐の登りで滑落注意

交通費概算：JR 約 18000 円 +バス代（参加人数により変わる）

宿に送迎バスをお願いします。

1 日目 3000 円×2、2 日目往復 5000 円参加人数で決まります。（15 人参加で 700 円くらい）

宿泊費：12000 円 だいろく（TEL0256-94-2026）

その他：（昼食 2、入浴は自由に）：

担 当：（CL）前田、（SL）山口洋・四元

*さきたま古墳公園と忍城跡 ウォーキング

桜、菜の花を愛で、古代ロマンを堪能、忍城の歴史に触れる旅です。

日 時：4 月 8 日（土） 集合 北鴻巣駅

（往 路）：東武新鎌ヶ谷 7:11（柏行）—柏 7:27 _7:30（大宮行）—大宮 8:36 _8:45（籠原行）—北鴻巣着 9:11 1151 円

（復 路）：行田 15:23（湘南新宿ライン・平塚行）—大宮 15:56_ 16:15（急・柏行）—柏 17:07_17:12（快・船橋行）—新鎌ヶ谷着 17:22 1239 円 解散：行田駅

コース：北鴻巣駅…（さきたま緑道 4.5km）…さきたま古墳公園…（バス）…忍城跡…（バス）…行田駅 行動時間：5～6 時間

費 用：電車 2500 円位 バス 150 円×2 回=300 円（現金のみ）

博物館入館料 200 円×2 ヶ所=400 円

ガイド料（さきたま古墳公園と忍城跡の 2 ヶ所）人数によるが 1 人 400～500 円位

その他 昼食：1 食

- ・さきたま古墳公園 さきたま史跡の博物館 200 円 048-559-1111
- ・忍城跡 行田市郷土博物館 200 円 048-554-5911
- ・ボランティアガイド（有料）2 時間×2 ヶ所依頼。048-556-5221

担 当：（CL）鈴木（か）、（SL）山岡・村上

*坂戸山 ゆるい山（体☆☆）

新潟県魚沼市の歴史ある坂戸城址のある山です。山頂からの見晴らしが良く、桜やカタクリが沢山咲く人気の里山です。

日 時：4 月 22 日（土）雪の量により変更の可能性有り 集合場所：六日町駅

交 通：

（往 路）新鎌ヶ谷 5：50—松戸 6:08_6:15（上野行）—上野 6:34_7:10（とき 303 号）—越後湯沢 8：13_9：02（上越線 長岡行）—六日町駅 9:22

（新幹線 とき 303 号）東京発 7:00

（復 路）六日町駅—越後湯沢—上野—新鎌ヶ谷

コース：上り 六日町駅—（城坂コース）鳥坂神社…一本杉…坂戸山…（大城）

下り（薬師尾根コース）山頂…寺ヶ花分岐…登山口…六日町駅

歩 程： 標高差 470m コースタイム 5 時間

山の特徴（危険）：登山道は整備されていて安全だが日にちに寄り雪が残る。

交通費概算：14,000 円 位 ジバング使用可 昼食：1 食

担 当：（CL）小林、（SL）岡部・（SL）村田

県連関係予定行事

ワンコイン講習会案内

- ・実施日 : 2023年2月19日(日) 13時~
- ・会場 : 船橋市西部公民館2F 第1・2会議室
- ・講師 : 石田 良恵 先生
- ・参加費 : ワンコイン(500円)

高齢者の転倒事故は、なぜ多いのか？

その要因と対策を学び、山行を楽しみませんか！

何歳からでも始められる筋トレ・ストレッチ

一生、山に登るための体づくり

新装版

石田良恵
Yoshie
Ishida

80歳、現役。定年後に山登りを始め、全国で指導を行う研究者の実体験から生まれた体と向き合う方法

毎日/
15分のトレーニングで
免疫力を高め、コロナに負けない体づくり!

参加申し込みは羽鳥さんにメールで 締め切り 2月12日

山行報告

かあ ぶり どうげ 顔 振 峠

日 程：12月24日(土)晴

参加者：鈴木か、前田え、山口よ、清水、猪狩、柳、永木、石塚（記）

顔振峠は久しぶりです。ビールと天ぷら蕎麦のミニ忘年会を開くというので参加しました。

東吾野駅から顔振峠までアップダウンがあり、長かったです。

しかもユガテでユズを買ってしまい、ザックが重くなりました。

おなか为空いて、皆さんの心は早く峠について（飲みた〜い）です。

13：15到着。

室内は少し寒いので、焼酎のお湯割りと天ぷら蕎麦を注文しました。

持ってきたおつまみは出してよいと、お店の人が言ってくれました。

山々の景色の中で、美味しゅうございました。

貸し切り状態だったので、山の話で盛り上がりました。

下山は石がゴロゴロの道を下り、黒山のバス停に着いたら、すぐに越生駅行のバスがきてラッキー！

12キロ、ロング歩きを頑張りました。



顔振茶屋にて

沼津奥アルプス

日 時：1月6日（金）

参加者：江崎、安田、嶋本、五十嵐朝、菊池、桐生（記）

船橋を6:08乗車、3時間電車で揺られ、沼津からバスの終点大平で下車したのは9時50分。「寒くないね～」とゆっくり歩き始める。登山口には多くの車が駐車している。毎日、大嵐山（日守山）に散歩で登っている人が多いらしい。登山口からの道端に水仙の花が咲いていた。大嵐山（日守山）からは、大きな富士山そして遠くには南アルプスの峰々が白く連なって見える。ここから大平山に進む道が不明だった。地図とヤママップと磁石で確認する。



柵を乗り越えなければ進めない。私道なのかな？届け出があるようなことが書かれていた。昭文社の地図には載っていて、ヤママップは破線になっていた。赤布もあり『大平山』の文字も見えて先に進む。小さなアップダウンが続き、ロープと垂直のハシゴもあり、ちょっとドキドキする山道は久しぶりだから慎重に歩く。でも危険個所を過ぎると「この山楽しい～」に変わるメンバーです。

大平山手前でランチにする。安田コーヒー店が開店する。「山で飲むコーヒーは最高ね」元気を付けてもうひと登りで大平山頂へ。

（おおべらやま）と読むらしい。ここからはバス停まで、のんびり歩きで1時間もかからない。駿河湾を見下ろしながらバス停着。



衣張山

日 程：2023年1月12日（木）

参加者：山口（洋）・菅原・加藤・前田（延）・村田・鈴木（か）

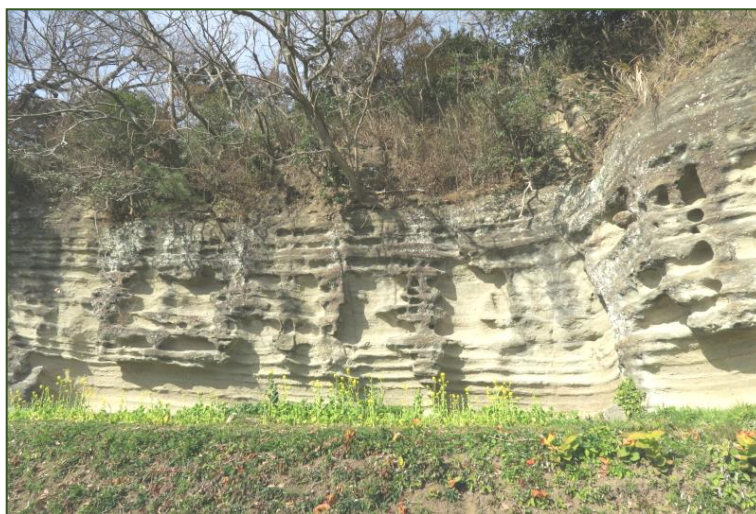
江崎・嶋本・羽鳥・蓮見・竜口・井上勝（記） 計12名

1月の会山行として、初詣をかねて「衣張山」へ行ってきました。

当初は混雑を予想していましたが、その心配はほとんどなく、途中のアクシデントも何もなく、ほぼ時間通りに行動することができました。

「鶴岡八幡宮」から「義時・頼朝の墓」を詣で、鎌倉最古の寺「杉本寺」を経由し、平成巡礼の道で「衣張山」へ。登りは短い距離であるが、少し息切れした。登りきった所が「衣張山」。見えるチャンスが少ないと言われる雪をかぶった「富士山」・「相模湾」奥に「駿河湾」、街並みを見ながら、山頂で皆一緒にランチタイムをとり、「浅間山」「パノラマ台」を経て「名越切通」へ向かう。「お猿島の大切岸」は忘年山行時に見た伊豆大島でのバウムクーヘンを思い起こしたが、自然現象か人工で造ったものか、とても興味深く、その先の「まんだら堂やぐら群」は開放されていなかったが、全貌を伺い知ることができた。そこから巡礼古道を戻り、小さな石仏・摩崖仏の「金剛窟」を見て、ほどなく竹林で有名な「報国寺」へ。ここにて解散となり、報国寺を参拝して抹茶を楽しんだ人、少し歩いた橋のたもとからバスを利用して「鎌倉駅」へ向かった人、歩いて若宮通り、小町通りを楽しんだ人、それぞれが三々五々家路に着いた。

このコースは鎌倉のおすすめのコースとしての観光地図にはなく、案内図などを見ても、衣張山あたりは載っているのですが、その近辺は他の情報や説明でかくれてしまっています。CLの綿密な下準備のもとでの実施でしたが、各場所での歴史説明もしていただき、鎌倉らしさを味わえる旅でした。



お猿島の大切岸

16歳の日記【自転車で福島県1周7日間と磐梯山登山】

令和5年元日 猪狩晃一

まえがき

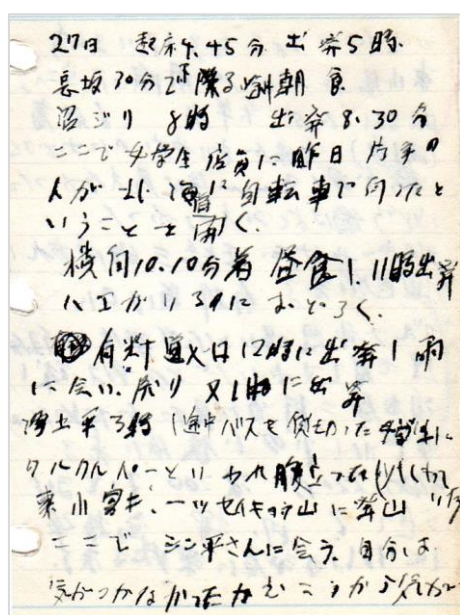
【16歳の自分からの贈り物（無銭旅行と称しての福島県1周約360km）】

『書きっぱなしの小さいメモ書きバインダー手帳を60余年ぶりに読んだ』、気にはなっていたが1度も見なかった“ずぼらな性格”そして“下手な文章と文字の読みにくい”のには今さらにあきれた。

この計画は『下村胡人の次郎物語』の影響であった。『16歳の自分』から『80歳の自分』と『同行した相棒』への贈りものとして纏めた。相棒とは良き友として今でも付き合いが続いている。

昭和33年7月23日から29日までの7日間の福島県1周、無銭旅行とは言え私が1000円、相棒が米5升を持っての出発となった。当時の自転車はごっつく頑丈で重たかった。

食事は適当な場所を見つけ火をおこし飯盒で炊く、おかずは缶詰、昼は梅干し入りのおにぎり、宿は行き当たりばったりで頼んでタダで泊めてもらう。そんないい加減な計画であった。一般論で言えば2人は県内旅行と言う事になるが当時長距離移動は難しく、旅行も一般人には縁が無く、なお更いわき市は常磐線が便利で東京志向であった。2人にとっても郡山、会津若松、福島共初めて行く場所であった。地図は持たず、大まかな行程はいわき市～郡山市～会津若松市～福島市～いわき市經由小川町に帰る計画であった。



16歳のメモ日記

1日目（7月23日）いわき市小川町～磐越道～郡山市（校長宅泊）約30km
前日相棒の鈴木が自転車で4時間走って来て我が家に泊まる。いわき市小川町を6時出発小野新町着9時50分。郡山から来た女子高生に会い話をし、『小名浜に海水浴に行く』と言う、我らは反対で郡山に向かう。

小野新町菅谷で母の従妹の家を訪ねる。（12時から2時間ほど昔話をし近況を話した）郡山への途中阿武隈川で泳ぐ2人づれの男子高生に会い話をし、風呂変わりに川で一緒に泳いだ。その後別れて5時頃から川のほとりで薪を集め火をおこし、缶詰おかずに飯盒飯を食べた。

宿探しで農家2軒に断られた後小学校を訪ねた。宿直の老いた先生（実は校長）が話を聞いてくれた。そして校長の自宅に泊まることに成った。家族はあんがい良い人だった。（アベックと間違われた）校長先生の経験談として『郡山から会津までのマラソンに参加した』話をしてくれた。

朝飯をご馳走になった。特に味噌汁が旨かった。

2日目(7月24日) 郡山から磐越西線道 会津若松市(教会泊) 約60km
校長宅6時半出発、11時半志田浜で火をおこし飯盒での昼食。隣り合わせたア
ッベックと話をした。そこで『裏磐梯のバンガローに泊るのが良い』と言う話
を聞き計画に入れた。

会津若松市に7時着、中山峠は急登で厳しかったが休まず乗り通し、教会があ
ったので迷わず訪ね事情を話し宿泊をお願いし快諾してもらった。

食事の後教会に呼ばれ、その日がミサの日で信者が12人位集っていて皆さんか
ら祝福を受けた。

40歳位の女性から始まり何人かから祝福の言葉を貰った『世に勝つ事は信仰な
り』『世話になり、世話をする人間は誇りを持っている』『平(いわき市)から
自転車でパンクもなく、ケガもなく、災いもなくここに辿り着いたのはイエス
様が守ってくれた』その後牧師さんの話を聞き、えらく感動した。ミサが終わ
って風呂に入り11時就床した。

3日目(7月25日) 裏磐梯、檜原湖 バンガロー泊 約40km

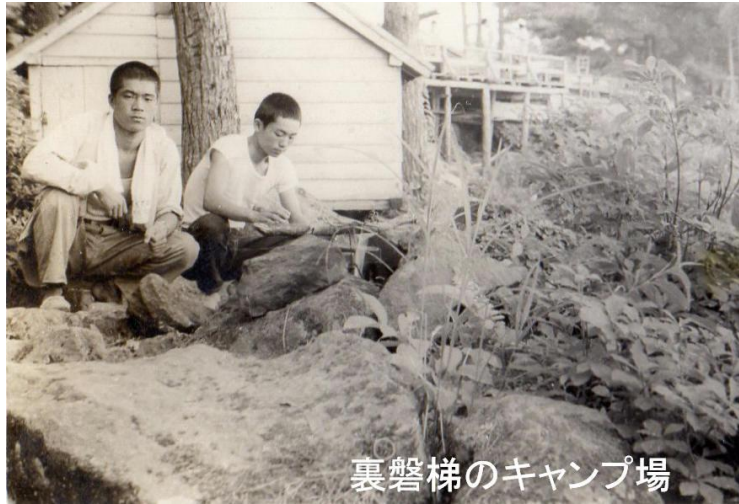
5時起床予定が夕べの疲れのせいで6時になった。牧師さんから福島へのルー
トは『磐梯吾妻スカイラインが開通して間もないが評判が良い』との話を聞く、
牧師さんの案内で鶴ヶ城と飯盛山見学。歴史上知られた話として『鶴ヶ城が燃
えていると勘違いして少年白虎隊20人が自害した話。その中で死にきれなか
った1人が東大の初代総長になった話』を聞きえらく感動した。

9時40分教会に戻り『薄皮まんじゅうをよばれた“実に美味しかった”』

10時40分出発、磐梯町に12時着、農家の人から声を掛けられ、その家で昼食
をごちそうになる。猪苗代町で野口英世の生家を訪ねた後、この日泊る予定の
裏磐梯のバンガローに6時に着いた。バンガロー代400円、毛布代70円支払っ
た(2人分)。1泊のつもりがここで知り合った高校生(黒川高校)がもう1泊
して磐梯山と一緒に登ることに成った。夜バンガローのドアがたたかれたので
起きてみると昼間言葉を交わした20歳過ぎの2人組の男がキャンプファイヤー
に誘いに来たとの事、4人共興味を持ち一緒に行く事に成った。ファイヤーの
輪に入り一緒に踊った。2人組の男は『今夜は帰らない、一夜の情事や!』お
前らも行こうと言われたが4人で話し合っについて行く意見もあったが結局4人
共断り10時にはバンガローに戻った。12時ごろ男女の騒ぐ声、戻って来たらしく
『もう寝たの!・・・お休みなさい!』と大声が聞こえた。・・・ “なんとも
気になった青春純情編でした”・・・



4日目(7月26日) 磐梯山登山(最初に登った100名山) 檜原湖バンガロー泊
予定通り4人でもう1泊して磐梯山に登ることに成りバンガロー発5時、途中で火をおこし飯盒炊き朝食をとり、頂上に9時45分に着いた。きつい山では無かった。“頂上からの絶景に感動”10時に下山の途につく、早い時間であり、登りの登山者多く、すれ違いに『こんにちはの挨拶』は少なくとも30回はした。一緒になった小母さんに写真を撮ってもらった。磐梯山は実に素晴らしい山でまた登りたいと思った。12時に無事下山した。それから昼食をとり、檜原湖に行ってボートに乗った。ボート代1時間100円。それから五色沼に行き、水の色が変わっているのので飲んでみたところ変な味でどぶ臭かった。原因は分からない。料金の追加は2組で折半した(バンガロー代+毛布+ボート代で1組200円)



5日目 (7月27日) 磐梯吾妻スカイライン通り高湯温泉 (玉子湯旅館泊)

約 80 km

4時45分起床、2人と別れ5時に出発した。後になって彼らから挿入の写真が送られて来た(我らはカメラは持てなかったのでありがたかった)急登の坂を30分で下る、途中で朝食、沼尻着8時、30分出発ここで女学生店員に『昨日片腕の人が自転車で北海道に行くと言っていた』と聞き、すごい人も居るなど感心した。横向に10時10分着、昼食、ハエが多いのに驚く、11時に出発。磐梯吾妻スカイラインの入り口で『無銭旅行の旨を話し、タダで通してもらった』12時出発したが途中でわか雨に会い入口まで戻って雨宿りをした。雨がやんだ事から13時に出発、浄土平に15時着、女高生の貸し切りバスの中の女高生の数人が『くるくるパーの手真似』を送って来たのには腹が立った。(スカイラインの急登を自転車を押して居る姿がどう見てもバカに見えたのか)

浄土平の東小富士、一切経山(標高1622m)を登った。ここで偶然にも母校からこの4月に福島の高校に移動になった早川心平先生に声をかけられた。課外授業で生徒10人位の付き添いであったとの事。我々2人は気づかなかったが先生から声をかけられたのがうれしかった。

心平先生の思い出として入学初日の物理の授業で怒られたのを鮮明に覚えている。『“お前何やっているんだ” なに・・・無意識にやっている・・・無意識が一番悪い・・・』

浄土平から下り坂になり、いきなり晴れから濃霧に変わった。一寸先が見えなくなるとはこの事かと思った。下り坂を3時間ブレーキのかけっぱなしでその上湿気もあり、ブレーキが利かなくなったのには困った。どうにか高湯温泉(玉子湯旅館)着いた。早速宿の交渉、初めは米支給で220円(1人)と言われたが200円にまけてもらった。高校2年生が病気養生に来ていた部屋に相部屋になった。一週間泊まっていると言う、病気とは言え贅沢だなあと思った。夜オールスター戦を見る。(相棒がその後結婚してからこの温泉宿に家族連れで何度か訪ねたと聞いた。)

6日目 (7月28日) 高湯温泉 ~ 福島市 (青年会館泊) 約 20 km

旅館を出発時、米を渡し食事付き宿代400円(2人分)請求されたが昨夜髭のおじさんが200円で良いと言ったはずと言ったら、200円になった。安く上がって良い気分朝風呂を同室の高校生と3人で入って別れた。

宿を8時に出発した。1km下った所でパンクした。直すのに苦労した。

磐梯スカイラインを出て福島に入るとリンゴ畑が一面に広がっていた。

良く見ると手の届く所に食べごろの赤いリンゴが連なっている。人も居ない、車も走っていない、採らない手は無いだろうと自転車を降り手を伸ばして2個ほど戴いた。取り立てのせいあまり美味くはなかった。その後相棒と言い争いになりケンカ別れをした。その時の所持金が200円になり、今晚の飯は?宿は?心細くなった。県庁に12時に着き、屋上に行く“なんと!なんと!”相棒

が居るではないか！ これにはびっくり！ 結局別れて 3 時間後に再開出来て安堵した。相棒も米 1 升持っているだけで困っていたようである。

・・・(屋上！！ 何とかは高い所が好きと言うからわかる気がする)・・・

(・・・ケンカの原因は記してなかったが真夏の日射、長時間の自転車と飯盒飯の用意、おかずは缶詰、梅干入りのおにぎり、これじゃ疲労も限度か！ ケンカになっても仕方なかったか・・・)

そこで裏磐梯にこれから行くと言う女高生と話をした。

その後阿武隈川のほとりで昼食とした。それから途中道を間違え川俣に、そこから引き返し浪江町に向かった。

道端のお店で水を貰った時アルバイトの女高生に声をかけられた。『磐梯スカイラインでバスの中から我々 2 人が自転車に乗っているのを見たと言う』バスの中で『くるくるパー』の手真似の女高生では無かったようだ。

津島で泊まるため宿探しで小学校を訪ねたが誰もいないので区長を訪ね事情を話し宿のお願いをした。近くの青年会館が良いと言われた。

区長の家で夕食をごちそうになった。家族は『青年会館は夏祭りの練習でうるさいので家に泊まれ』と言ってくれたが区長は子供が居るからと”うん“と言わず毛布 2 枚をもって青年会館に案内してくれた。青年会館では 10 人位で太鼓や鐘で夏祭りの練習をしていた。明日 NHK が撮影に来ると言っていた。やはりうるさくてなかなか眠れなかった。

7 日目 (7 月 29 日) 福島 (富岡街道) ~浪江~いわき市小川町 約 130 km
6 時出発、8 時ごろから雨が降り始め、今日中に家に帰れるか心配になった。浪江の農家で昼飯を食べさせてもらった。米を渡そうと思ったが受け取ってもらえなかった。

2 時に出発、体力も限界である事からヒッチハイクが良いと言う事になり、小型トラックを止めていわき市平まで乗せて欲しいとお願いしたが“荷台に乗ることに成るので警察に見つかるとうるさい”と断られたが、何故か 1 km 先で待ってくれて乗せてもらった。(運転手さんよほど良い人だったのでしょう)。いわき駅で下ろしてもらった (15 時着)。

駅近くの官舎の相棒の姉の家に寄り食事をごちそうになった、そこで彼と別れ小川の家に戻った。暗くなっていた。日焼けして地黒の顔がいつそう黒くなると皆にはひやかされた。

“無事到着 “万歳・・・万歳・・・万歳” でした。

あとがき

計画のきっかけになった『次郎物語 (下村胡人)』が気になり図書館で文庫本全 5 冊を借りた (余りの長編にびっくり!) と 2022 年 7 月再発行、初版昭和 11 年 1 月、85 年後に再販とは驚きです。超名作なんでしょうね。借りた本はほぼ新品同様、あまり読まれて無さそうでした。

無銭旅行の文字は無く『無計画の計画』となっていた。しからば無銭旅行と言う言葉をどこから仕入れたか全く記憶に無い。ネットで見ると明治時代流行したとあったが、でしょうね！『お金ではなく無銭』とあるので。

『次郎の冒険は筑後川を徒歩での探索』兄とその友人との3人、この冒険は次郎にとって小さいものではなかったと書いてあり、その後『問題ある先生』と闘う場面が書かれていたが“さて！自分はどんな変化があったか”は記憶に無い。ただ『山での“こんにちは”から始まる会話、タダ飯、タダ泊まり等の温情は考え深いものがあったのでは』また高校卒業と同時に何とか成ると憧れの東京へ、そして居座って60余年、成れの果てに東葛の人になった。

いろんな人にお世話になれたのは田舎人の『人の好き』と田舎では当時高校生は真面目であったので信用されたと思った（学帽は有効であった）。

- ・無銭旅行で持参した1000円は今の3万円程度か（2人分で7日間）食事は自炊、泊りをタダにしてもらった。
- ・次郎達が持参したのは40円（今の10万円程度か）、3人で6日間。昼弁当付き食事と泊りで謝礼金を渡したと言う。
- ・次郎達が泊めてもらった次の日の村長に名所を案内された。私共も同じように牧師に名所を案内された。
- ・朝と夕食は薪を拾い、火をおこし飯盒飯、おかずは缶詰、昼は梅干し入りのおにぎり、7日間ほぼ同じメニュー。後遺症と言うか缶詰は今となっても苦手でめったに食べない。

現代版登山での無銭旅行の話

無銭旅行という言葉は最近では耳にしないうえです。死語に近いでしょうね。昔流行したヒッチハイクも同じようなものではないでしょうか、今でも山の世界には『行動として』残っていますよね。皆さんも会ったり、聞いたりした事はあるはずですよ。例として定年後100名山踏破を目指し、車を改装し（ねぐら）、1度に5峰・6峰とか、まとめて登り、キャンプ場、道の駅で自炊、安くあげ、しかも短期間に完全制覇をする。『合理的ですよ』また昨年10月に苗場山で会った人の例、近くまで普通電車を利用、駅広場（無人駅）でテント泊で自炊、そして持参した組み立て自転車で登山道入り口まで。『2つ共金はかからんですよ』形を変えた無銭旅行とは言えないですかね。

コロナ禍前に車で東北1周を計画したが、もたもたしている内にコロナ禍でとん挫しましたが・・・『100名山の残りの登山』と『昔、結構多かった東北の仕事場巡り』も良いかも思っていたが。コロナ禍明けに再チャレンジ？“さあ一どうでしょうか、無理ですね。

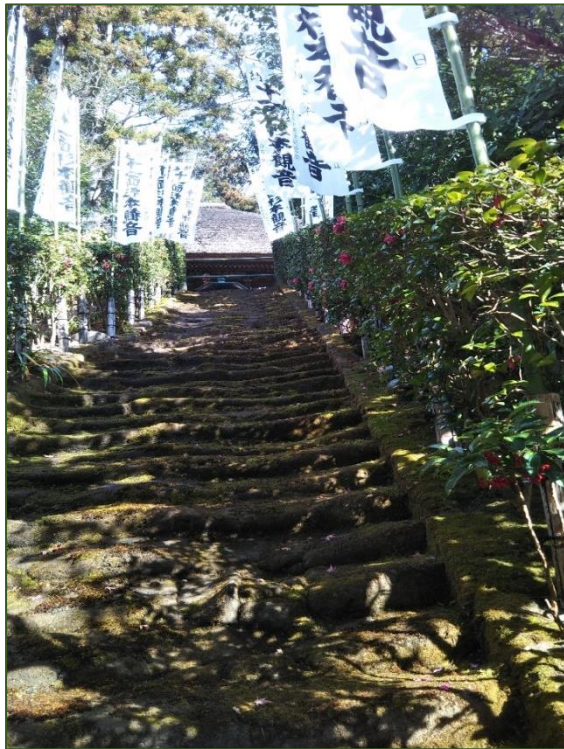
私の百名山はこの時の磐梯山から始まり昨年10月14日（80歳の誕生日の前日）苗場山で85峰を達成しましたが完全制覇は無理でしょう。

（私の人生と一緒に、いまいち根性無しです）

きぬほりやま
「鎌倉の衣張山」を振り返り

羽鳥健一郎

新調のスカルパの靴ひも締めて鎌倉の街巡る初春
鎌倉の八幡宮への段葛^{だんかずら}リュックを背負いシニアらが行く
「雪ノ下」住居表示も風情あり静寂の路地を漫ろ巡りぬ
西御門楠^{にしみかど}の巨木の下眠る頼朝の墓所清め掃く人
鎌倉の杉本寺の苔むせし階段の脇幟^{わきのぼりはた}旗立つ
東葛の姫らと共に鎌倉の寺を巡りて衣張山へ
目交いの富士山^{まなか ふじ}を仰ぎて陽だまりの衣張山の昼餉華やぐ
仲間らと冬の陽を浴び^{いにしえ なごえ}古の名越の切通しを偲び進みぬ
凜とした空気流れる報国寺万両の実の赫々と映ゆ
山下りてあれこれ悩み「鳩サブレー」懐かしき名に惹かれ求めぬ



私を山狂いにさせた山『黒斑山』

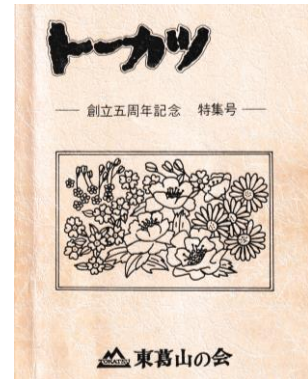
安彦秀夫

入会して初めての山行が、会としても初めての『夜行日帰り』の『黒斑山』でした。当時の会報を探しましたが、山行報告らしきことを書いたモノが見つからず諦めかけました。

ところが、あったのです！ 会として初めて発行した記念誌に…。

『**トーカー** 創立5周年記念 特集号(昭和57年12月15日発行)』に記事を見つけました。全て手書きで編集されていますね。

40年前の原稿を以下に引用します。



タイトル: 『私と東葛山の会 素晴らしい山登りとの出会い』

現在の私の山狂いは、今からちょうど5年前にさかのぼります。

朝日新聞千葉版で本会の存在を知り、連絡先になっていた鈴木さん宅に電話を入れ、会の様子等を聞いたのが始まりでした。折り返し手塚さんより電話があり、更に詳しいことを話したような気がします。この時は、既に本会が発足して半年が経過していました。また、名称は『鎌ヶ谷ハイキングクラブ』でした。鈴木さんは現在退会していますが、市民ハイクの時にご家族の方が参加されたような記憶があります。

この会と出会う前は、会社にあるハイキング同好会の仲間と、年に1~2回程度の1泊2日のハイキング等だけでした。それが現在のようになったのですから、何がキッカケになるのかわからないものです。

最初に参加したのが、本会初めての夜行日帰り山行『黒斑山から湯の平高原(昭和52年10月22~23日)』でした。この時に入会したわけです。私にとっても夜行日帰りという形は初めてだったので少なからず不安がありました。しかし現実…。

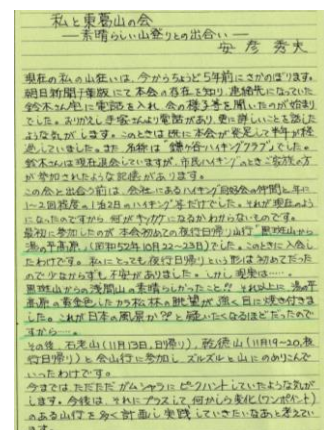
黒斑山からの浅間山の素晴らしかったこと!!

それ以上に、湯の平高原の黄金色したカラマツ林の眺望が強く目に焼き付きました。これが日本の風景か…?!と疑いたくなるほどだったのですから…。

その後、石老山(11月13日、日帰り)、乾徳山(11月19~20日、夜行日帰り)と会山行に参加し、ズルズルと山にのめりこんでいったわけです。

今までは、ただただガムシャラにピークハントをしていたような気がします。今後は、それにプラスして何かしら変化(ワンポイント)のある山行を多く計画し実践していきたいなあ…と考えています。

3月号は安田さん、野澤直千さん、4月号は松本さん佐藤賢一さんです。前月の20日を目安に加藤までお願いします。



1月号「思い出の山」に、訂正・追加箇所がありましたので、赤字で修正しました。

山の思い出を書いてほしいと言われ、最近はあまり行っていないので昔のことだったら書けるかもと言ったらそれを書いてほしいといわれ、創立時の事を書いてみようと思う。

創立は1977年、会員は創立者3人と創立総会時に来てくれた数人で発足した。例会は月1回(1986年5月から2回に変更)で、今の図書館の前に建っていた市役所や旧三橋記念館を借りて行っていた。

1回目の創立山行は妻坂峠・武川岳に会員5名と一般参加者9名でカタクリの花を目当てに行ったがあまり咲いていなかった。

2回目からは鎌ヶ谷広報を利用して参加者を集めた。毎月1回広報に載せて市民ハイクとして参加者も多くなってきた。

8月には丹沢の水無川の堰堤キャンプを行った。この頃は参加者の年齢も若く子供は低学年が多かった。市民ハイクに行った人から会員になる人が段々多くなってきた。ハイキングだけでなく岩、沢、縦走と山行の多様化が出てきた。

会員は鎌ヶ谷だけでなく船橋、松戸、白井と近隣の地域の人が多くなり、会の名称を鎌ヶ谷ハイキングクラブから東葛山の会に変更した(1978年10月1日臨時総会で決定)。

1884年、松戸に住んでいる人たちで松戸に山岳会を作ろうと話が出ていた。この人たちから東葛山の会の私に話が聞きたいと連絡があり松戸で逢うことになりこの時に会ったのが当時全国連盟の理事をやっていた鈴木寛太さんで松戸の創立会員になっていた。このあと松戸と一緒に東葛山の会も1984年6月に東京東部連盟に加盟(労山)、東部連盟ではこの当時、中級登山学校を作ろうとしていた。中級登山学校というのは谷川岳の岩場を登れるような人材を作ることだった。誰でも入れるわけではなく、試験に合格しなければ資格がないということで入ることはできない。三つ峠の岩場の試験があり、東葛山の会で私と畑さんが合格した。この学校の校長先生が谷川岳で亡くなった吉尾 弘さんでした。

この頃千葉県連から、千葉の山の会がどうして東京の連盟に入っているのかと連絡が入り、松戸山の会と共に1986年4月に千葉勤労者連盟に移籍し今に至る。

昔は3人よれば山岳会と言われるほど小さな山岳会が続々出てきた時代でもあった。山岳事故も多く新聞にも事故の知らせが多く載っていた。このころは疲労凍死が多く、山に行くときは必ずツェルトを持って行くことを奨励していた。

以前、県連主催の房総のキャンプ場で道迷いの行方不明者がいて明日捜索に入るから参加してほしいと県連から連絡が入り、何人か連絡を取り、翌朝早朝に現地に行く。不明者は一般募集の人でした。県連に入っていればこそ誰が遭難しても連絡があれば捜索に手弁当でかけつけてくれる。

これがどこにも所属していなければ単独か、あるいは現地の救助隊の助けを借りなくてはならない。お金もかかるし、時間もかかる。前に例会の時県連に払うお金の話があったが、もし事故があった場合の事も考えてほしい。

ちょっと一言

金子 真紀

このところ年のせいか、仕事を終えて帰宅するとグッタリ。お風呂と簡単な夕食を食べるとアツという間に眠くなる。そんな日々が続く中、山に出かける以外で小さな楽しみが毎週土曜日 8:00AM から 2 時間の NHK ラジオ「石丸謙二郎の山カフェ」を聴く事。土曜日は仕事が多いが、最近スマホのアプリ、radiko(ラジコ)で聞き逃し配信なるものを発見。1 週間は聴けるので休みの日に家事をしながら聴いている。山小屋からの実況中継や山のスペシャリストのお話、山に似合う音楽等。山に関する音は心地良い。実際の山にはたくさんは行かれないが、今の私には充分癒される時間だ。

山カフェ, お邪魔にきました〜。



3月号の担当は畑中さんと笹さんです。

(2月20日を目途に柳 嗣穂宛て原稿をメールにて送付願います。)

(ヤナギ ツギホ norinatsu1130@gmail.com)

編集後記

…お知らせ…

毎月の例会報告は、例会欠席者の為に『やまびこ』に載せてきましたが、2023年2月号からお休みいたします。例会進行を聞きながらペンを走らせるのは誰でも出来る事ではないのです。3名で担当していましたが、諸事情で3名とも活動が出来なくなりました。

< ~会報部~ >

やっと日の出時刻が2日で1分ずつ早くなり春を感じるようになりました。

あちこちで満開の蠟梅の花も見かけ、沈丁花の蕾もすぐにも咲きそうな気配。久し振りに庭に出たらクリスマスローズが株の根元で咲いている。

苺も数個白い花をつけ春の準備中。

啓翁桜もたくさん蕾を持っている、この桜は2年前のお正月に切り花として買ったもの。花が終わった後花瓶に置いたところきれいな葉が出てきたのでそのままに、その後捨てようと思ってみると切り口から根が出ていた。

鉢に植えたら去年きれいな濃いピンクの花をつけた。ソメイヨシノより少し早めに咲く、楽しみです。 前田 えつこ



原稿作成要領

用紙設定 A4

余 白 上下左右 30mm

フォントサイズ MS明朝 12P

※原稿締め切り、毎月20日までにお願いします。

<担当>鈴木か、山岡

手書きも大歓迎です。会報部員に渡して下さい。

発行日 令和5年2月1日

発行者 東葛山の会

会長 安彦 秀夫

編集 会報部